

女川原子力発電所環境放射能調査結果（年報）における 積算降水増分及び降水増加率について

1 概要

県と東北電力では、環境モニタリングの参考とするため「積算降水増分※¹」と「降水増加率※²」を算出しているが、女川原子力発電所環境放射能調査結果（令和 7 年度年報）の作成時に、当該項目の算出プログラムに誤りがあることが判明した。

このため、令和 7 年度年報の県の当該項目については現在再計算を行っていることから、本技術会資料（資料 3－2 表－4－1－4～10）においては、空欄として報告するもの。

なお、東北電力の当該項目については、正しく計算されていることを確認している。

※1 降水による空間ガンマ線量率の増分を降水の影響をうけている期間にわたって積算したもの

※2 積算降水増分を降水量で除したもの（降水量 1 mm 当たりの空間ガンマ線量の上昇量）

2 事象を把握した経緯

令和 7 年度の年報を作成するにあたり、県の環境放射線監視システム（以下「テレメータシステム」という。）から帳票を出力したところ、積算降水増分及び降水増加率が負の値を示した。

当該項目は、降水に伴う空間ガンマ線量の上昇を把握するという性質上、負の値が算出されないよう設計していたことから調査したところ、職員がプログラムの誤りを発見した。

3 影響範囲

調査の結果、当該プログラムの誤りは、県が令和 6 年度にテレメータシステムを更新した際、生じたものであった。このため、更新後のデータについて確認を行ったところ、当該項目以外のデータについては、正しく計算されていることを確認済みである。

当該項目は、四半期報告書では記載しておらず、年報においてのみ記載しているため、テレメータシステム更新後に本技術会にてご提示した資料のうち、令和 6 年度第 4 四半期報～令和 7 年度第 4 四半期報には修正は生じないが、令和 6 年度年報については修正の可能性はある。

4 今後の対応

「積算降水増分」と「降水増加率」の再計算終了次第、近日中に、改めて令和 7 年度年報を書面にてご提示し、ご評価いただくこととしたい。

また、令和 6 年度年報の修正及び本事象にかかる発生原因及び再発防止対策については、次回技術会にてご評価いただくこととしたい。